

教宣 せぶん

第71回栄総行動 名古屋支店要請

「この会社に保険を任せて いて大丈夫？」 「女性の口 コミが一番怖いんですよ」

女性団長の率直な言葉に 会社タジタジ

4月15日(水)、71回を数える伝統ある名古屋「栄総行動」に参加しました。昼のデモ行進の後、午後2時より名古屋支店へ要請行動をおこないました。今回、要請団の団長を務めていただいたのは全国福祉保育労働組合の小山さん。この行動を通して初めての女性団長でした。支店幹部やガードマンなど10名をこえる男性が、要請団を中に入れさせまいとバリケードをつくるなか、小山団長は女性特有の視点で、会社に誠意ある対応を迫りました。

「外勤社員としての雇用を破壊されるかもしれないという窮地に立っている彼らが、切実な思いをこめて要請書を持ってきているのに、どうしてこんな冷たい対応をとるのですか？前近代的な対応を目のあたりにして本当にビックリしています。」

「要請書に対し、皆さん方にイエス・ノーを求めているのではないじゃないですか。誠意を持って要請を受けてほしいと言っているだけなのに、どうしてそんなこともできないのですか？」

「私も東京海上日勤の保険に加入していますが、安心・安全だと思うから御社を選びました。消費者に安心や安全を売るサービス業の会社が、判決や命令に従わず、いつまでも労働争議を抱え、要請に来た者にこんな冷たい対応をするのが信じられません。本当にこの会社に保険を任せて大丈夫なのかと感じています。」

「今日の皆さん方の対応や会社の印象を、私は知り合いに伝えます。女性の口コミってというのが一番怖いんですよ。」

小山さんの率直な一言ひとことに、居並ぶ支店幹部はまったく返す言葉がありませんでした。最後、会社は、団長だけの中に入れて1対1で要請を受けると言い出しましたが、小山さんは「こんな対応をする会社に、一人だけで中に入るの怖いし、嫌」と拒否し、あえて玄関前で要請書を読み上げ、手渡しました。支店幹部は「必ず本社に伝えさせてもらいます」と、この日一番力強い声で答えましたが、小山さんの“迫力”の前にタジタジでした。

要請終了後、小山さんは「今日の行動を経て、皆さんのたたかいに関心が深まりました。17日の本社前行動にも行きたいくらいです。栄総行動としても皆さんのたたかいを応援していきます」と言ってくれました。私たちのたたかいに、またまた強力な応援団が加わりました。

「一日も早くこの労使紛争を解決し、外勤社員を外勤社員として引き続き雇用していくように」。小山さんが発したこの言葉は、要請団団長という立場であると同時に、「お客さまの声」でもあります。会社は重たく受け止めるべきです。